

ホーム名：グループホーム白馬(ゆとり)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	周辺症状に対してのケアはもちろん、加齢と共に高まる医療ニーズにも対応し、住み慣れた地域・ホームでの生活が維持されることを理念で謳っている	「グループホーム白馬基本理念」3項目が玄関及び事務室に掲示されている。入職時に説明をし、また毎日目の届く場所に明示している事で意識付けをしている。	理念は誰にでもよく解かる短い言葉が望ましい。本ホームが目指すべき、独自のあたたかく解かり易い理念を職員で考えてみられたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	「地域ケア会議」に参加しているほか、地域の民生委員や自治会長にはホームでの会議に参加いただいている	自治会に加入しているが、自治会行事には参加出来ない。散歩時に近隣の方々とは交流がなされている。「ふれあい喫茶」への誘いを頂いている。	地域ボランティアの活用などで、入居者が喜ぶ取り組みを増やしていられる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の依頼による認知症サポーター養成講座へのスタッフ派遣や、隣接している診療所から在宅での認知症介護について、家族の相談に応じている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内のヒヤリハット事象などについて、特に診療所看護師からは毎回意見が出され、これまで多かった「服薬にかかる事象」は大きく減っており、会議での意見を日々の業務にいかしている	入居者・家族・町内会長・市職員・箱の浦民生委員・協力医療機関等がメンバー構成となり、3ヶ月に1度開催されている。事故事例や入居者の要介護度の変化・現況について詳細に報告がなされている。	ホームの様子がよく伝わる様に、会議(録)に行事報告や行事予定を盛り込む工夫を望む。進行役と書記を分ける事でより充実した会議の運営を図られたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員事業を通して、スタッフには届いていない利用者の要望や、他施設と比べて改善すべき点(同じ相談員が毎月訪問してくることにより)ホームの雰囲気の変化など日常的に助言を受けている。また運営推進会議の事故事象報告においても、助言を受けている	介護保険課職員には運営推進会議に出席頂けており、直接ホームへ足を運んで下さる事でホームの実情を感じて頂けている。市への相談事例は今の所無い。	運営推進会議時には市職員からの助言を積極的に得る様に努め、より協力関係を築きながら今後のホームの充実に繋げられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	漫然とベッド柵などで困ってしまうのではなく、必要な時期・期間・他の替わるべき方法の検討、を行ったうえで、家族との話し合いを行っている。状況をみて玄関についても日中開放していることもある	現在家族の了解の下、転落防止の為にベッド柵の使用や歩行困難者には足元や布団に鈴を付ける等が行われている。フロア間は自由に行き来されている。	ベッドの見直し等、入居者の状態に見合った環境作りでその人に見合った支援を今一度職員で話合われてみられたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日中は複数の勤務であるが、夜勤帯は一人勤務となるため、平屋建ての利点を活かし2名で連携して業務にあたることもあり、精神的な負担の軽減に努めている。法律については会議の折に学習の機会を設けた		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>かつて各々の制度を利用されていた利用者もいて、後見人や支援事業担当者（社協）の方の役割について学んだことがある</p> <p>ご家族が遠方など日常的な支援が困難な利用者に対しても、制度利用など喚起している</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護報酬や制度改正の度、重要事項説明書などの変更が生じるため、文書での説明はもちろん、電話来所での相談に応じ、ご家族の不安疑問の解消に努めている</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々の利用者が「要望」を言われることは少ないが、市の介護相談員は毎月6～8名の入所者と話し合わせ、聞かれたことはスタッフに伝えられている</p> <p>またご家族には投書箱や外部への苦情申立の方法など、入所時に説明を行っている</p>	<p>各入居者には担当職員を決めており、普段から関係を築くよう指導している。家族からは職員の名前がわからない・面会時間を配慮してほしい・通帳からの引き落としを等の意見や要望が上がっている。</p>	<p>家族からの意見や要望・苦情等はホームの充実への良い機会と捉えたい。職員間で知恵を出し合い、解決に向けた取り組みに期待したい。</p>
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議の前にスタッフから議題や提案を受付、自発的な意見の集約に努めている</p>	<p>職員の意見から、消耗備品のチェック方法・入居者起床時に於ける支援の見直しなどで改善が見られ、また浴室出入口の手すり棒の設置が実現された。</p>	<p>職員からは会議時の投書だけでなく、普段から意見や提案が述べ易い環境にある。今後も積極的に取り組み、支援に反映させていって欲しい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>利用者の重度化に伴い身体的な介護が増えている</p> <p>クリニック職員による入浴介助・受診時送迎の支援を受けて職員負担を軽減し、有給休暇の取得も増え消化しやすくなっている</p>		
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が行った外部研修の伝達講習は行っているが、個々の介護職員が外部研修に行く機会がなかった</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>計画作成担当者が地域の事業者との窓口になり、地域の勉強会などに参加している</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用希望の相談があつてから入居までに面接を行い、本人・家族からの情報収集を行い、スタッフで共有し、入居後のケアにつなげている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接により家族本人のニーズを把握し、入居後も面会など精神的な支援の関係を共に作るように努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前の面接で本人のニーズを見極め、受診や食事など個々に応じたサービスを検討し対応に努めている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>高齢の方が多くコミュニケーションもとりにくくなっているが、洗濯物を干したりたたむ、食器拭きなど能力によって「役割」を分担している</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>衣服の入れ替えや、外出外泊、日常的な面会など家族の精神的支援は必要であるため、役割を果たしてもらっている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域密着型となりホーム近辺の方の入所が多くなったが、担当されていたケアマネの方に引き続き面会や精神的な支援をいただくようお願いしている</p>	<p>美容院の送迎で、行きつけの美容院に通い続ける入居者がおられる。隣接の病院に来たついでに花を持参して下さる地域の方もおられる。</p>	<p>会いに来られた家族さんと道路向かいの喫茶店に出向かれる入居者もおられるとの事。馴染みの関係がいつまでも続くように、その人その人の支援を引き続きされるように願う。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>大正一ケタ生まれの方が大半となり、長期の入所で「難聴」や「身体的症状」も進み、利用者間のコミュニケーションは、ほとんど取れていない</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も介護やサービスの利用について相談に来られれば支援し、また再入所の事例もある</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人の思いを、本人や家族から聞き取りをしているが、長い入所期間中に、コミュニケーションもとりづらくなっているため、本人の様子などから意向を把握するように努めている	職員には隣の席でじっくりと話をするように、またコミュニケーションを大事にするようにと指導している。家族にも情報を求め、新しい情報はカルテに赤字で載せるようにしている。	職員担当制を活かし、入居者により深い関係作りで今後も思いや意向の把握に努められたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前の面接ではご家族や本人から生活歴や直前までの経過を聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者にはスタッフの担当を決め、日常の連絡以外に、要望などを聞き取ることもある聞き取った声は直ちに管理者に伝えられ、必要に応じて介護計画の見直しや主治医に伝えられている	高い目標は立てず、家族から言われた要望を組み入れた介護計画の作成に心掛けている。個々の目標でなければいけない事は事務室に貼り、職員で共有しながら達成に向け支援している。	毎週の往診がある事から、医師や看護師の意見も取り入れたその人その人に即した介護計画の作成で、入居者の毎日を充実したものとさせて頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェックや食事・排泄など利用者の健康管理に関することはもちろん、利用者間の「やりとり」や周辺症状など詳細な記述に努めている。とりわけ夜間（夜勤帯）は1時間おきに状態を記録し、睡眠や排泄パターンを理解し翌日のケアや介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	低栄養状態や透析食など食事に配慮のいる方や、単身者等買物困難な方が日用品の買物を要する時、本人の状態にあったものを揃えられるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方などの支援があって入居された方については、引き続き精神的な支援をお願いしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的にはホームの定めた協力医療機関で受診しているが、入所前から通院されていた整形外科・婦人科・精神科・口腔外科については本人の希望するところに行かされている	1週間に1度の往診で入居者全員が診察を受け、検査、投薬指示が出され、隣接されるクリニックへ案内している。内科以外は家族が付き添い受診している。	入居者の全員が薬剤が処方されている。服薬確認のための支援に多くの注意力をはらっている現状がある。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>リハビリや処置、注射などほぼ毎日隣接している診療所に利用者を連れて行っていることで、日常の相談などができる関係になっている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医となってもらっている隣接している有床診療所への入院が多いが、日常的に訪問診療などで主治医も個々の入所者のことをよく把握され、早期に退院できるように相談をしている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>食事のみこみが悪くなったり、水分摂取が困難になるなど、ホームや併設の診療所での対応が困難となり、他施設での対応となることは家族会あるいは個別に伝え、近隣の療養型病院・施設へ紹介している</p>	<p>終末期の対応は他施設で対応している。家族にも伝えている。</p>	<p>入居期間にもよるが、生活を共にする中で自分を知ってくれている人達に見守られながらの旅立ちは自然の流れと思われる。今後、入居者の希望がどうか意思を確認する場を家族と共につくられたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>発熱に対しては対応をマニュアル化している その他鼻出血・嘔吐などの突発的な症状の際は、隣接している有床診療所の当直医・看護師の指示を受ける</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震・火災時は隣接している診療所の駐車場を避難場所に定め、避難誘導時の診療所スタッフの応援を受けることになっている</p>	<p>それぞれのユニット単位で入居者参加のもと避難訓練を行っている。事業所が高地にあるため津波は想定していない。災害に備えての米・水は外の倉庫で管理。</p>	<p>入居者参加での訓練は避難時の経路、足元が悪かった等具体的な経験が気づきとなっている。今後、夜間災害を想定した訓練も具体化されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>申し送りを「現場（フロア）」でする際は、名前を直接言わず、イニシャル等を用い、他の入居者にわからないように配慮している</p>	<p>入居者の名前は苗字で呼ぶ。圧迫感を与えないよう、腕組み、足組は禁止している。話す時はひざ付対応している。</p>	<p>入居者の嫌がること、苦手なことへの対応は個人を把握しなければできない。今後も、声かけが受けとめられホッと入居者の笑顔がみられる支援に期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>難聴や言葉・表現が十分にできないなどコミュニケーションがとりにくい方には、時間をかけても自分の思いを伝えてもらえるように支援している</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴・食事・受診以外の日課は自由であるが、何をしたらいいかわからない方もおられる。居室でテレビをみたり臥床される方もおられるが、ユニットの他の方とも一緒に過ごす機会を午前中には意識して声かけしている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>カットは毎月行っているが、「いきつけ」の美容院にパーマや毛染めに行かれている方もおられる</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器拭きなど進んでスタッフを手伝おうとされる方もおられるが、身体的に介護を要する方が多くなってきている。野菜の皮むきなど座ったままできることならばできる方もおられるので、手伝ってもらっている</p>	<p>職員が交代で献立調理に当たっている。2つのテーブルに分かれ職員も入居者と同じ食事で支援にあたっている。入居者の人気メニューは①散らし寿司②うどん③さしみである。</p>	<p>職員の見守りで打解けた雰囲気は暖かく感じた。最高齢の人も自分のペースで支援行為も自然な流れだった。今後も待ち遠しい食事を楽しんでいただきたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量に応じて配膳を行っている。また本人の状態によっては嚥下のしやすい盛付、水分量などの調整をして提供している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後うがい（歯みがき）を必ずしてもらっている。口臭の強い方は「舌苔」を毎週歯科医・歯科衛生士に取ってもらい、また舌用歯ブラシを用いてスタッフが介助している方もおられる</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿意のある人には日中3時間ごとの声かけ・トイレ誘導を、失禁のある人にはおむつを使用しているが、上げ下ろしに介助はいるものの布パンツを利用されている方も多い</p>	<p>2～3人の方は見守りの中で自分からの排泄行動ができています。時間毎の誘導支援で紙パンツに頼らない支援がある。排便調整で薬を使用する人は多い。</p>	<p>トイレでの排泄を基本とした排泄支援は尿意感覚を取り戻せるチャンスにもつながる。薬剤に頼らない習慣を構築されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の排泄パターンを理解し、併設診療所の指示を受け、水分摂取や緩下剤を用いている。長期にわたる場合は居室で浣腸等の処置を診療所看護師に受けている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>すべての希望に応じた入浴は行っていない</p>	<p>午後から週3回、入浴支援を行っている。入居者の多くは自分から「入りたい」とは言わない。季節によりゆず湯等も提供している。入浴時の事故防止のため入念な研修を行っている。</p>	<p>入浴は入居者が最もリラックスできる場であり、職員にとってもマンツーマンで話のできるチャンスになる。体調の変化が把握できる機会にもなる。入居者ひとり一人の生活習慣を大切に、寄り添える支援に期待する。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方が多いので、体調や状況に応じて居室のベッドで臥床してもらっている方もおられるが、水分摂取やおやつ、食事など時間を決めて離床してもらっている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から提供を受けている薬剤情報を各利用者のカルテに綴り、いつでも最新の投薬内容・用量について把握している		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	要介護状態が進み、食事の用意・片付け・洗濯・掃除など役割を持っていただくことが少なくなっているが、洗濯物をたたんだり、野菜の皮むきなど座ってできることは何人かの方にはお手伝いいただいている		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々に応じた対応はできていないが、月1回程度はユニット毎の外出・外食の機会を設けている。またご家族の付添があれば外出は自由であり、服薬の調整をしている	天気の良い日は入居者からも希望が出される。マンツーマンでの散歩や車椅子外気浴も行っている。ユニット別の30分かけてのドライブ支援は歓迎されている。	隣接するクリニックでリハビリ・機械浴が行なわれていることから外気に触れる機会は多いと考えられる。車椅子を押しながらの複数での散歩も景観を共有できる等の機会となる。園芸などの参加で目的あるものに繋がる支援に期待する。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想の強い入居者がいるため、入居者の金銭管理はしていない		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望があれば応じている。電話の取次ぎは日常的に行っている		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境を保ち、落ち着いた生活をおくっていただいている	昼食前に全員で嚥下体操を行っていた。職員の誘導に集中する入居者の姿があり、集団での生活に馴染む様子である。全体に掃除も行き届き清潔に保たれている。	フロアから洗濯物が見え、採光は良好である。「今日は外に出たいなあ」と希望がでるものも頷ける。生活感のある環境である。今後、集団生活のメリットを活かし、ひとりではできないがみんなでなら楽しくやれる・体を動かす支援に期待する。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分なスペースはないが、ソファに座り集まって個々に談笑されている		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込みは自由で、家族などの写真や観葉植物、花鉢など、持ち込まれている。また気に入った服や宝飾品などを持ち込み、毎日何回も着替えている方もおられる	ベッドと整理ダンスは事業所で提供している。入居者に応じた支援を基本に、食品の差し入れに対して家族への協力依頼で制限することもある。	居室を好む人もいたり、プライベートを楽しんでいる。居室での生活変化も認知症の変化に繋がることもある。自発的な行動確認で生活エリアが広がる支援に期待する。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなく安全に移動ができるようにしている。また洗剤などのある部屋・浴室は施錠して事故を防いでいる		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない